

宇城市の予算

予算には強い拘束力があり、行政は予算に従って事業をしなければなりません。つまり予算が決まることで市の事業が決まるのです。

予算は市の1年間の収入と支出の見積もり大きく「一般会計」「特別会計」「企業会計」に分かれている

一般会計は私たちの生活全般に関する施策を経理する会計。特別会計と企業会計は特定の事業に限定した会計です。これらをまとめた冊子が予算書です。

市の予算の作り方は「枠配分方式」

財政難の折から、従来の積み上げ方式による予算要求・査定の方法にかえて、総務部、企画

であった2月市議会定例会で、今年度の予算が決まりました。すべての会計を合わせた総額は昨年度に比べ0.9%増の502億7000万円。

「財政が厳しいのに増額して大丈夫？」とお思いでしょう。これは国がお金を出してくれる事業が増えたから。市が出すお金は昨年より減りました。

厳しい財政
しかし地域振興のために「農林水産物直売所」建設費に1億4900万円を計上

国が市に出してくれるお金（地方交付税）は昨年度より約2億9000万円の減額で見積もっています。

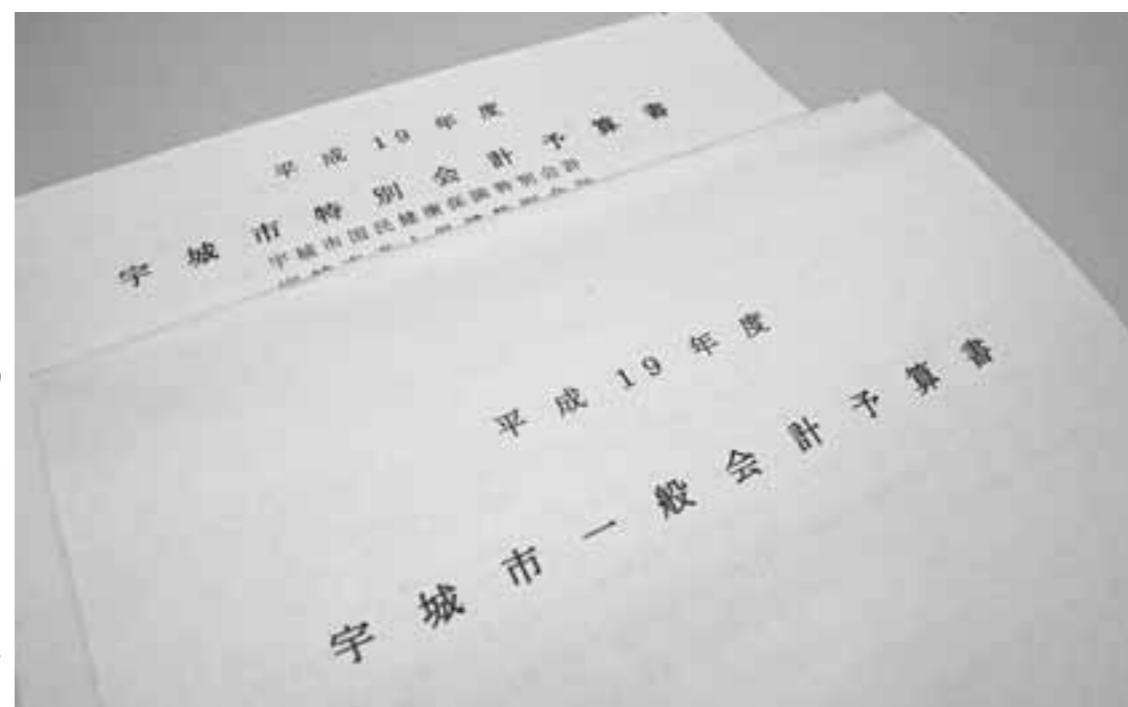
これを受け、市は職員の定数を減らしたり、事務事業を見直したりすることで歳入と歳出を徹底的に精査。今年度の予算を「緊縮予算」にしました。

そのような中でも地域振興の拠点となることが期待される「農林水産物直売所」の建設費に1億4900万円を計上するなど、市の将来を見すえ大きな事業も予定されています。

19年度の市の予算が決定
総額は前年度比0.9%増の502億7000万円

2月19日から3月9日の会期

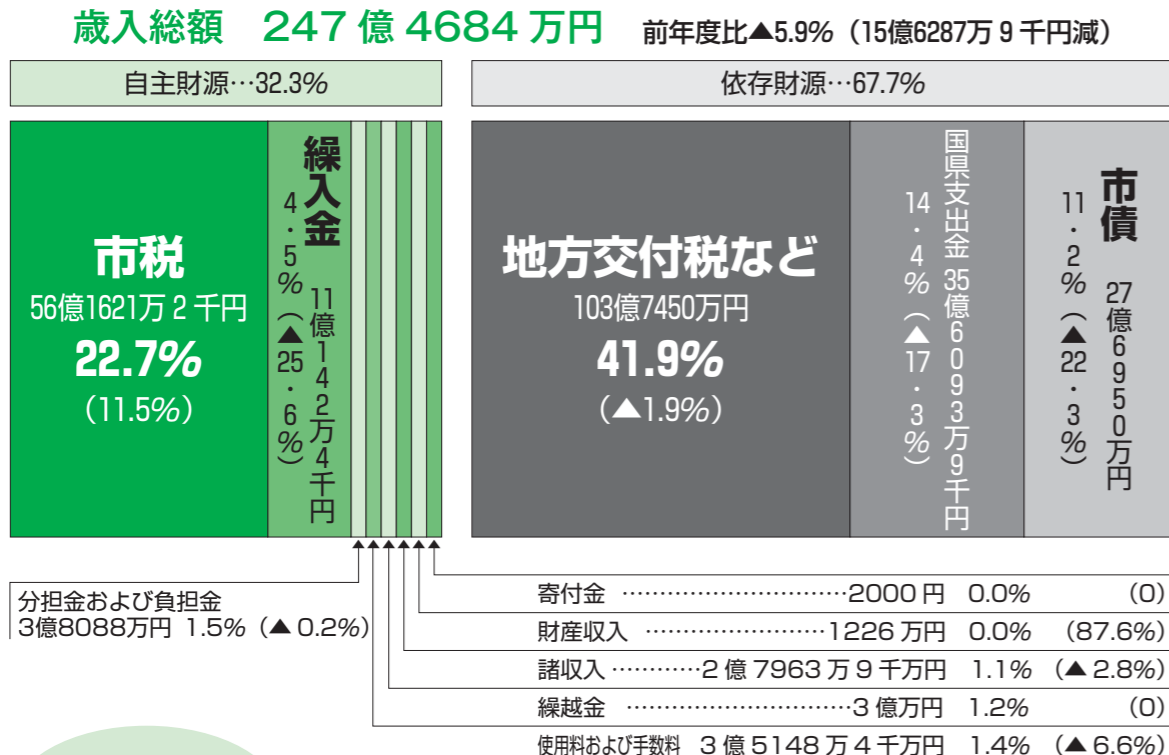
予算が分かればまちづくりの方向が見えてくる



A4判で182ページにわたる平成19年度宇城市一般会計予算書。奥は特別会計予算書。

一般会計 歳入 (収入)

※カッコ内は対前年度比



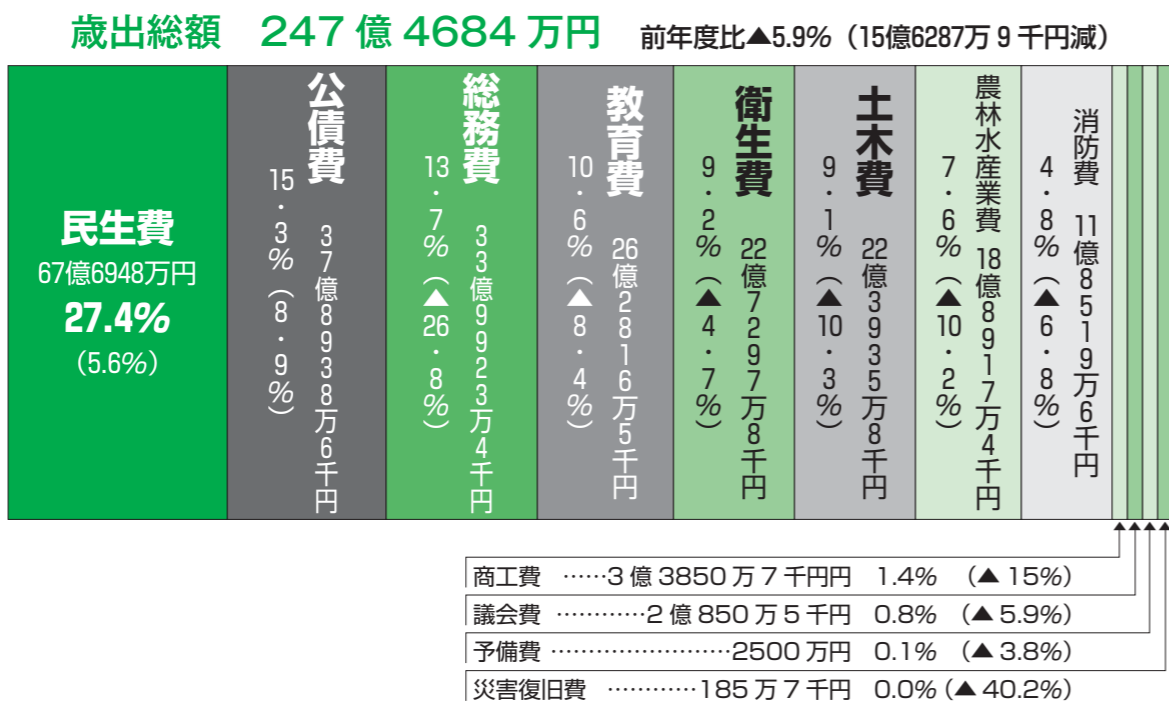
ここに注目!

国に依存しないで市が独自に調達できるお金(自主財源)が乏しいため市の財政は国・県の予算や政策の影響を受けやすい構造となっている

簡素で効率的な政府を目指す国は「平成19年度予算編成の基本方針」の中で地方への歳出を抑制すると表明。国庫補助金の削減や地方交付税制度見直しの影響を受け、市が安定した財源を確保することは今後ますます難しくなっていきます。

一般会計 歳出 (収入)

※カッコ内は対前年度比



ここに注目!

- 民生費と公債費以外はすべて減少
- 少子高齢化対策などで民生費が増加
- 旧5町時代に行った事業の借金返済(公債費)に追われ預金(基金)を取り崩す一方、借金を積み重ねているため公債費が増加
- 庁舎別棟・三角支所・豊野支所の建設が終わったため総務費が26.8%(12億4600万円)減少